特集

新しい観光の形
農家民宿のすすめ

農山村に宿泊し、田舎の生活や農作業を体験できる「農家民宿」。新しい観光の在り方として注目されています。市観光協会は本年4月から、市内農家民宿の予約をワンストップで行う共通受付を開始。手続きを簡素化し、観光客の誘致に取り組んでいます。今回は、話題の農家民宿の魅力に迫ります。

ことば

農家民宿

農林漁業の体験を提供する宿泊施設のうち農林漁業者が営むもの。本紙で紹介している民宿はすべて、旅館業法に基づく営業許可を受けています。

何気ない風景が旅の目的地になる

工忠照幸（くちゅう）さん（五泉町）

プロフィール

大阪府吹田市出身。高校卒業後、世界を二周。帰国後、ホテルや旅行会社などの勤務を経て「宿をやりたい」という目標のため中上林地区に移住。里山ゲストハウス「クチュール」を、妻の衣里子さんとともに経営している。平成29年に旅行会社「MATA TABI（マタビ）」を設立。地域資源を生かしたツアーやイベントなどを手掛けている。

―宿泊予約の共通受付とは

市内で営業している農家民宿は10軒を超え、府内でもトップクラスの多さです。もともと、民宿同士の情報共有や連絡手段として、メールを一斉送信できるようにしていました。この仕組みを生かしてさらに発展させ、ワンストップで宿泊予約ができれば宿泊希望者の利便性向上につながると考え、共通受付の導入に携わりました。

各宿に直接予約もできますが、市観光協会のホームページで、泊まりたい農家民宿を第3希望まで記入して申し込めば、総合旅行業務取扱管理者の資格を持つ私が予約手配します。

―どのような効果がありますか

一番は、お客さんの手間が減りました。それぞれの民宿について調べて電話しても、予約を断られたら、また次を探さないといけませんよね。これは、結構な労力です。また、お客さんが綾部に泊まりたいと思っていても、一軒目に断られた時点で近隣市へと流れてしまうかもしれません。共通受付システムを導入したことで、綾部の宿泊者獲得の機会損失も防げます。

さらに、受け入れ側にもさまざまなメリットがあります。家主さんは、民宿経営をなりわいとしている方ばかりではありません。私が仲介することで、それぞれのペースで余裕を持ってお客さんの受け入れができます。また、自前でホームページやインターネット予約システムを持っていなかった民宿にとっては、PR手段が増えました。

―宿泊者の特徴は

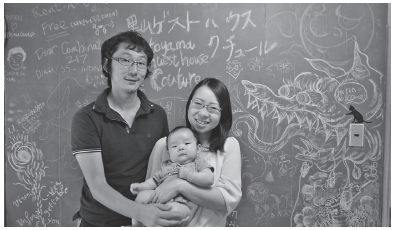
綾部に泊まりに来る人は「田舎に行きたい」とか「農業を体験したい」という人だけでなく、「田舎に移住したい」という明確な意思を持った人も多いですね。家主に移住相談されるお客さんもいらっしゃいます。

昨年、市内の農家民宿には、約920人が宿泊。前年より、300人近くも増えました。田舎暮らしが見直される中、今後も増えるのではないでしょうか。今は国内だけでなく、海外にも農家民宿に泊まりたい人が多くいます。そういった需要を取り込むためにも、海の京都や森の京都DMO、関係機関と連携して、広く情報発信していきたいです。

―今後の展望は

綾部の農家民宿は、地元の人だけでなくU・Iターン者などさまざまな人が運営しているのが大きな特徴。近所の人とも温かな交流があり、それぞれの宿Ⅱ4、5面Ⅱに個性があって面白いですよ。

綾部には全国的に有名な大きな観光資源はないかもしれません。でも、そこに農家民宿があることで、何もないと思っていた風景が、豊かな里山として旅の目的地に変わります。市内に農家民宿がもっと増えればいいなと思いますし、そこに訪れるお客さんには綾部の自然や空気を肌で感じてもらいたい。そして将来的には、移住・定住にもつながればと思います。



工忠夫婦が営む宿の玄関には、世界中から訪れたゲストが寄せ書きする黒板が飾られている。右は妻・衣里子さん。

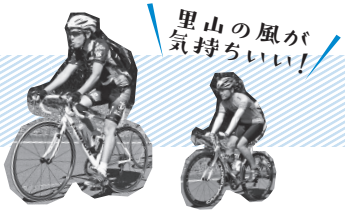
個性派揃い！ 綾部の農家民宿ガイド

共通受付で予約できる市内の農家民宿を、案内人が観光スポットとともに紹介します。

※大人1人の料金を記載しています。季節によって変わる場合があります。また、子ども料金の設定がある民宿もあります。 ※体験は有料の場合があります。事前にご確認ください。

案内人
白子あゆみさん
関東地方からUターンし、自然と共生する喜びを感じながら、ふるさと暮らしを満喫。綾部市観光協会事務局の主任として、綾部の魅力を発信している。

予約はこちら ▶▶▶▶▶
市観光協会ホームページ
http://www.ayabe-kankou.net/hotel/houses/kyodoketsuke.html



西部エリア

民泊さくら
（西方町）

希望により、ジビエ料理が味わえる宿。事前予約で「押し花スペシャリスト」の奥さんに教わりながら、押し花を使ったしおり等の手作り体験もできる。

1泊2食6,000円
体験：野菜・果実収穫、山菜採り、庭木・果樹の剪定、そば打ちなど
問い合わせ：☎0773(49)1512

ぼっかって
（西方町）

農薬や肥料を使わない「自然農」をしながら、加工食品の製造やアート制作を行うオーナーが営む宿。自然農で育てた野菜中心の料理を提供している。

1泊2食8,000円
体験：野草摘み、田植え、稲刈り、まき割り、草木染めなど
問い合わせ：☎090-4491-3290

水田家の食卓
（志賀郷町）

田舎暮らしを希望する人が多く訪れる宿。ありのままの田舎の生活が味わえる。動物性の食材を使わない、ベジタリアン料理を提供している。

1泊2食8,000円
体験：農作業、もちつき、まき割りなど
問い合わせ：☎0773(21)1245

手紙の木の家
（志賀郷町）

大工でもあるオーナーが改装した、こだわりの空間。山や田んぼに囲まれた、抜群のロケーションが自慢。庭の大きなタラヨウの木（手紙の木）で、ブランコが楽しめる。

1泊2食6,000円
体験：農作業、野菜収穫、山菜採り、クリ拾い、風呂焚き、ホタル観賞など
問い合わせ：☎0773(21)2069

西部エリアの見どころ

動物と直に触れ合え、大人から子どもまで楽しめる「綾部ふれあい牧場」がおすすめ！ツツジやハスが美しい「楞厳寺」や府内最大規模の円墳「私市円山古墳」など、歴史が感じられるスポットも。

ばったり庵
（篠田町）

囲炉裏とまきストーブがあるモダンな古民家の宿。手づくりのみそや醤油などを使った発酵食料理が好評。毎週土曜日は併設のカフェも開店。宿泊客以外も気軽に利用できる。

1泊2食8,000円
体験：農作業、まき割り、みそ・醤油づくりなど
問い合わせ：☎0773(21)1709

中部エリア

イワンの里
（上八田町）

半農半Xを実践するオーナーの宿。その生き方に共感する人が海外からも訪れる。玄米菜食にも対応。予約すれば、宿泊客以外でもランチやカフェが楽しめる。

1泊2食8,500円
体験：田植え、まき割りなど
問い合わせ：☎0773(21)1648

ぽかぽかのうえん
（上八田町）

自然と生きるため、東京から移住したオーナーが昨年11月にオープンした宿。調理もできるまきストーブを備え、あったか料理も堪能できる。

1泊2食7,000円（共同調理・食材費込み）
体験：野菜収穫、よもぎ茶づくりなど
問い合わせ：☎0773(21)4188

東部エリア

月あかり
（下原町）

山家観光やな漁の近くに位置する、山家地区初の農家民宿。本年4月にオープンしたばかり。縁側から見る月景色が美しい。

1泊2食7,000円
体験：農作業、自然散策、そば打ちなど
問い合わせ：☎0773(21)6198

健ちゃん村
（十倉名畑町）

何でも手作りしてしまうオーナーの遊び心あふれる宿。裏山に設置したお手製ブランコは、子どもたちに大人気。

1泊2食7,000円
体験：家庭料理教室、まき割り、みそづくり、そば打ちなど
問い合わせ：☎090-6907-7017

芳兵衛
（武吉町）

築400年を超える古民家を改修。古文書や昔の農具なども展示している。多くの農作物を栽培し、季節を問わず農作業や収穫が楽しめる。

1泊2食10,000円（共同調理・食材費込み）
体験：山菜採り、農作業、果物の収穫など
問い合わせ：☎0773(45)1862

里山ゲストハウス クチュール
（五泉町）

半数が外国からのお客さんという、国際色豊かなゲストハウス。ドミトリー（相部屋）式で、宿泊者同士の交流も楽しい。

1泊素泊まり3,000円
1泊1棟貸し　1人5,000円
体験：自然散策、地元住民との交流、ハイキングなど
問い合わせ：☎0773(21)6745

東部エリアの見どころ

一部地域が京都丹波高原国定公園に指定されるなど、豊かな自然が魅力のエリア。信号が少ないので、サイクリングを楽しむ人も多いですよ。自然散策などで里山を満喫した後は、美肌の湯として知られる「あやべ温泉」で汗を流しませんか。

農家民泊かじか
（五泉町）

川遊びや自然散策など、水源の里市志の自然が満喫できる宿。水源の里の活動に携わるオーナーに、市志への移住相談もできる。

1泊2食6,000円
体験：自然散策、川遊び、ホタル観賞、山菜採り、野菜収穫、ツリークライミングなど
問い合わせ：☎090-7365-9602

弥平治の丘
（岡安町）

自家製のお米を「おくどさん」で炊くご飯が好評の宿。静かな丘の上で、ゆったりとした時間が過ごせる。

1泊2食8,000円
体験：田植え、野菜の収穫、和太鼓体験など
問い合わせ：☎0773(44)0927

中部エリアの見どころ

農家民宿がある西八田地区には、古民家を改装した飲食店も。ゆったりとした時間を過ごしてみてはいかがですか。車で足を伸ばして、市の観光交流拠点「あやべグンゼスクエア」から、大本へと続く通りの散策なども楽しんでください。

それぞれの宿では、季節にあわせ、田植えや川遊びなど、さまざまな体験ができます

行ってみよう 農家民宿 やってみよう

泊まってみました！

児玉裕美さん（高津町）

神奈川県に住む弟家族が綾部に遊びに来た時に、里山ゲストハウス「クチュール」を貸し切って宿泊。温かく迎えてもらい、弟家族は「念願のホタルを見ることができ、ゆったりとした時間が過ごせた」と喜んでいました。自宅で迎えると、準備や片付けがありますが、農家民宿を利用することで、私も一緒にくつろげました。また、里山の自然に触れ、普段の生活では気付かない綾部の魅力を再発見。今度は、親しい仲間との集まりで利用しても楽しそうだなと思っています。

農家民宿の開業は、都市住民との交流による地域活性化や綾部ファンの獲得、農家の副収入確保など、さまざまな効果が期待できます。府は、農家民宿の「ワンストップ開業相談」を随時受け付けています。

詳しくは、府中丹広域振興局農林商工部地域づくり推進室☎0773(62)2505へ。

人との出会いが魅力です！

弥平治の丘　四方房夫さん、**魁子**（さきこ）さん（岡安町）

きっかけは、友人から農家民宿について教わったこと。人口減少が進む中、地域が元気になればとの思いで、自分たちも開業を決意しました。

これまで、都市部に住む親子や海外からのお客さんなど、多くの人を受け入れ。リピーターも多く、田舎のおじいちゃん、おばあちゃんのような気持ちでお付き合いしています。農家民宿の魅力は、なんと言っても人との出会い。農村の生活体験を通して喜んでもらえるだけでなく、私たちもお客さんから、多くのことを教わります。また、近所の人も食材の提供や収穫体験の手伝いなどを通して、一緒に楽しんでいます。こういった人との出会いやつながりは、かけがえのない財産です。